

リニア 新幹線

「2027年開業」ありきでなく
工事STOP！

日本共産党

事業中止の決断を

リニア中央新幹線の南アルプストンネル工事を巡り、川勝平太知事と金子慎JR東海社長（6月26日）、国交省の藤田耕三事務次官（7月10日）との会談が相次いでおこなわれました。

2027年開業をめざしてヤード（作業基地）の追加工事を認めるように迫るJR東海や国交省に対し、川勝知事は、工事開始の提案を拒否しました。

川勝知事の判断は当然

川勝知事は、「60万人の命の水」、「有識者会議の全面公開の約束を部分公開に変更」、「坑口工事は本体と一体が流域市町の共通認識。県条例に基づく自然環境保全協定も必要」「南アルプスが駄目になる」などの理由から、国交省の提案を拒否しました。

県民の切実な願いを尊重する知事の判断は当然です。

知事は提案を拒否
「ヤード工事は本体と一体」

写真：藤田国交省事務次官と会談する川勝知事（7月10日）



水資源確保とリニア 両立は不可能

「命の水」が確保されない

地下水 300 ㍓低下—JR東海影響予測

JR東海は、「トンネル湧水を全量戻す」（18年）と約束しながら、「工事中の一定期間は戻せない」（19年）とくつがえし、いまだに全量を大井川に戻すことが可能という科学的な根拠を示しません。

それどころか、国の第4回有識者会議（7月16日）でJR東海は、「トンネル周辺で掘削完了から20年後に、湧水期の沢の流量が最大7割程度減少」「地下水位が300㍓以上低下する」との予測結果を示しました。

南アルプス「ぶち抜く」、「国家プロジェクト」

3兆円の財政投融资 —責任は政府・国交省に

現在の南アルプスルートは国が深く関与し、国交省の審議会で決定。

南アルプス一帯は、最近100年間に40cmも隆起。日本有数の活断層地帯で、大地震が発生して地盤がズレて路線を直撃すれば、大惨事になるという地震専門家の指摘もあります。

JR東海・国交省の強行許さず 工事中止し、リニア断念を

コロナ禍のもと

「二大幹線構想」は
新幹線+リニア 破たん

- ◆新型コロナウイルス感染拡大で、東海道新幹線の利用者は一時、前年比9割に減少。リニアは新幹線収益を建設費に充てた収支見通しが立てられていますが、オンライン会議や在宅勤務の普及によりビジネス出張や海外からの旅行客減少で、利用減少の可能性も増大。工事が長引き工事費が増えるなど、採算、需要予測の見直しは必至です。
- ◆東京・名古屋・大阪をリニアで結び巨大経済圏をつくるスーパーメガリージョン構想は、大都市集中・地方切り捨てをすすめるもので、コロナ危機のもとで時代遅れに。将来の感染拡大の不安は広がるばかりです。



衆議院議員
もとむら伸子



前衆議院議員
しまづ幸広



参議院議員
井上さとし



参議院議員
武田良介



県議会議員
鈴木せつ子

いま、おすすめしています

しん
ぶん 赤旗

日刊 ●3,497円
日曜版 ●930円



検索 JCP静岡

静岡民報

2020年7月号外